資料　２

平成 29 年度　長岡市立図書館の活動評価（案）

平成 30 年 7 月 30 日

長岡市立中央図書館

平成 29 年度　長岡市立図書館の活動評価（案）について

１　評価の趣旨

図書館法第 7 条３項の規定に基づき、平成２９年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

２　評価の項目

（１）基本評価（前年度比較による数値評価）

前年度（平成２８年度）の数値と比較し、評価を行う。

① 利用状況

中央図書館入館者数、個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、登録率、実登録者数、登録率、インターネットアクセス件数、中央図書館開館日数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数、新規購入冊数・割合（特別資料の転載等許可件数は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

（２）重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番３と５は内部評価のみとする。

平成 29 年度重点事項

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。
５　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。
６　子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

３　評価の方法

（１）図書館の内部評価

・項目ごとに前年度数値と比較するなどして算定し、評価する。

・「基本評価」、「重点事項評価」ともに、ＡＡからＣまでの４段階の評価とする。

区　　分	評価区分・内容
基本評価	ＡＡ　･･･ 前年度を大きく上回った。（＋１０％超） Ａ　･･･ 前年度維持・伸張した。（０～＋１０％） Ｂ　･･･ 前年度を下回った。（０未満～－１０％） Ｃ　･･･ 前年度を大きく下回った。（－１０％超）
重点事項評価	ＡＡ　･･･ 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 Ａ　･･･ 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている Ｂ　･･･ 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 Ｃ　･･･ 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

（２）図書館協議会による評価

○　協議会の開催

・日　時　　平成３０年２月１５日（木曜日）

・会　場　　長岡市立中央図書館講座室１

○　協議会の意見のとりまとめ

・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

４　評価の概要

基本評価は、評価対象の 13 項目中、２項目がＡ評価となり、昨年度の５項目を下回った。Ｂ評価が１０項目、Ｃ評価が１項目であった。

重点事項評価は、事業別評価の２２項目では、Ｂの評価が１項目あった他はすべてＡの評価となった。また、総括評価では、すべてがＡの評価であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。

５　図書館協議会意見

（１）「基本評価」について

・「郷土資料の受け入れ」は年によって増減するものだと思うが、今回は減少幅が大きいことが気になる。減少した理由は次の２点が考えられる。１つ目が、関係機関や市民レベルで郷土資料があるはずだが、それを図書館に提供しようという雰囲気の醸成がまだ足りないのではないか。その点で図書館の受け入れ体制の周知が不足しているのではないか。２つ目は、文書資料室は様々な事業を行っており、職員体制が十分とは言えない中で手が回り切っていないという懸念があるため、職員体制などを検討してほしい。

（２）「重点事項評価」について

１　当市をはじめとする郷土資料に関する各種資料の収集・保存・活用に努める。

・「②　郷土資料の充実」は、冊数の問題からすれば評価は「Ｂ」だろうが、収集や保存・活用するための活動を鑑みると、Ｂ評価というのは評価が少し低いのではないか。

・「④　歴史公文書」について、活動の成果がこちらからはあまり見えていない。市役所内部と文書資料室が連携して収集し、内部公開を前提としているのだろうが、そこは評価を下げる必要はないが、やはり本庁や支所での意識をどこまで定着させるかが課題ではないか。

・「⑤　長岡市災害復興文庫」については毎年良くやっていると思う。そのため評価も「AA」でよいのではないか。

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

・庁内行政支援レファレンスについて、今年度の 13 件というのは多いとは言えない。これも図書館の問題と言うよりは本庁や支所の方でこのサービスの認識が不十分ではないか。困った時は図書館にアプローチするというのがまだまだ浸透しきっていないのだと思う。

３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

・図書館においても、障がい者のための施設整備の他に、LGBT や外国人の利用に関しても検討が必要だと思う。

４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。

・まちぼン事業については、２か所だけでなく他の場所も増やしてほしい。

５　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

・内部評価のとおりとする。

６　子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

・「①　第二次長岡市子ども読書活動推進計画」の策定については、教育、子育て関係の各課で真摯に内容を検討し、良いものが出来たと思う。

・「②　中高生向け図書館イベント」については、今回初めてこのイベントがあったことを知ったので、もっとPRに力を入れるべきである。このイベントのように頭を使いながら何かにチャレンジすることは図書館への興味や縁が深めるのに役立つと思う。

・課題としてフェイスブックでの広報が少し空振りしたとあるがこれは興味深いことだ。最近の大学生は、スマホをいじりすぎて睡眠不足になっているらしい。健康を害するほど、夜遅くまでこれにはまってしまっており、現実の本を見ない。恐らく高校生くらいまでは食い止められるのだろうが１人暮らしを始めた途端に、これにはまってしまうため問題であると感じる。大学進学や高校卒業を機に一気に自由になってしまうような部分があるため、もうすこしスマホなどの扱い方を分かっていてもらえれば良いと思う。

・中高生に向けての読書推進とあるが、私がバスに乗っていると中高生はみんなスマホに夢中になっている。高齢者が近くで立っていても座席から動こうとしない。そういった光景を見ると学校も大変なんだと思う。雪が降っていても傘もささずにスマホを見ていて、バスが来たら一番に乗り込んで席に座る。そういった子どもたちに図書館に来てほしいと言っても難しいことだと思う。自分は活字の本やテレビばかり見ているが世代が違うとアプローチも大変だと思う。

・私が住んでいる地域は図書館が無い地域なので、市の施設にはいくつか本が並んでいるが利用者はそれほど多くない。中央図書館や地域図書館が年間を通して頑張って広報活動をしていると分かったが、一方で地域間の格差も感じた。車を所持している人は多少遠くても大きな図書館を利用すると思うが、本離れというものを実感している。

・子どもたちにもっと絵本を読んでほしいという方が、自分自身が絵本好きで収集しており、それを活かして親子ではなく大人向けにコーヒーを一杯飲みながら絵

本を読むことができるスペースを作っている。子どもに絵本を読んでもらいたいと言う前に親や大人へのアプローチを行い、絵本は子どもだけのものではないという時間を作る取組をしている、そういった活動をしている方もいる。

・子ども読書推進計画の中で、子ども家庭課が主に行っているブックスタート事業がある。これは赤ちゃんが５～７か月の時に実施される赤ちゃん相談の際に絵本を一冊もらえるという事業だ。周囲の母親たちに聞くと絵本をもらえるのはありがたいと聞くが、まだ出かけることなどに慣れていない時期にそういうことをしてもちゃんと絵本を聞いていられなかったりするので、また別の機会にゆっくり時間を取って本を選びたいという声も聞くので検討してもらいたい。

【 目　次 】

Ⅰ　基本評価について

１　利用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２　管理運営費 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Ⅱ　重点事項評価について

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

①　貴重資料の公開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

②　郷土資料の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

③　古文書等の歴史資料の収集・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

④　歴史公文書の収集・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

⑤　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用 ・・・・・・・・・・・・・ 17

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

①　中高生向け図書館しごと応援事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

②　庁内行政支援レファレンス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

③　子ども連れへのサービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

④　図書館の環境整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

（１）重点事業の事業別評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（２）重点事業の総括評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（３）個別事業の実施結果について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

①　利用者アンケート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

②　友の会事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

③　ご意見ポストの設置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
①「詩人堀口大學と長岡」の開催【100 周年プレイベント】　・・・・・・・・・・ 32
②　各種機関と連携した事業の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
③　子ども読書活動推進計画関連事業の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
④　地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施　・・・・・・・・ 37

５　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
①　外部研修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
②　職場内研修　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

６　子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
（２）重点事業の総括評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
（３）個別事業の実施結果について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
①　第二次長岡市子ども読書活動推進計画の策定　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
②　中高生向け図書館イベントの実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
③　米百俵号による特別巡回の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
④　としょかんクリスマス★スペシャルコンサートの実施
【100 周年プレイベント】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

Ⅰ　基本評価について

１　利用状況

項　　目	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	評価	備考
入館者数（中央図書館・人）	３３８,７９０	３２２,５４１	３０４,７７７	B	
個人貸出冊数（冊）	1,６４７,０５７	1,６１７,６４６	1,５４２,５７６	B	
予約件数（件）	１８８,６７９	１９７,１４５	１８９,９４８	B	
有効登録者数（人）	４９,１３９	４８,２８７	４６,５４１	B	
登録率（%）	１７．８５	１７．６３	１７．０２	B	
実登録者数（人）	３７,７９８	３６,５８０	３４,９５６	B	
登録率（%）	１３．７３	１３．３６	１２．７９	B	
インターネット アクセス件数（件）	２９９,７１５	３４０,９３８	３１０,２３２	B	
中央図書館開館日数	３０１	２９９	２９５	B	
特別資料の転載等許可件数	９０	１１７	１６８		参考数値
郷土資料受入点数	3,０９０	3,３２２	1,９４７	C	
窓口対応満足度（大変よい＋よい）%＜中央館のみ＞	８３．４	８５．８	８７．９	A	
大活字本の所蔵冊数	6,２４５	6,５１５	6,７７８	A	
新規購入冊数【割合】	３４,８９４ 【３．９%】	３４,５７７ 【３．８%】	３３,４２７ 【３．４%】	B	

＊有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数
＊実登録者は有効登録者のうち年度内に１度以上貸出のあった登録者数

２　管理運営費

項　　目	平成２７年度	平成２８年度	平成２９年度	評価	備考
図書館費 （各年度の決算額・千円）	３５７,４９８	３６３,９１５	３８２,６５０		
（うち施設管理経費）	２２８,４０８	２６２,１２２	２５７,９２７		
（うち資料費）	６２,７４１	６３,１７５	５９,０９３		
（うち事業費）	６６,３４９	３８,６１８	６５,６３０		

Ⅱ　重点事項評価について

１　当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

（１）重点事業の事業別評価について

①貴重資料の公開

事業概要	・当館で所蔵している貴重資料の軸物・写本等を適切に保存するよう努めるとともに、展示公開し活用する。	
評価	A	評価理由
		・エントランス展示で貴重資料の紹介だけでなく文化講座と連携させるなど充実した情報を発信した。

②郷土資料の充実

事業概要	・長岡市や新潟県に関係する歴史・人物・民俗などの郷土資料を収集し登録・保存活用する。 ・話題になった郷土資料を迅速に収集する。	
評価	A	評価理由
		・郷土資料の蔵書数は図書館全体で、昨年度より 1,947 冊程度増加した。 ・郷土資料のデジタル化を行った。

③古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

事業概要	・各種講座の開催、長岡市史双書の刊行、歴史資料所在確認調査などを行う。 ・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。	
評価	A	評価理由
		古文書等の歴史資料の適切な収集・整理・保存・活用に努め、古文書解読講座等の各種講座などで活用した。

④歴史公文書の収集・保存・活用

事業概要	・市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。 ・災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。	
評価	A	評価理由
		・庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

事業概要	・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 ・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。 ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新、講習会への講師派遣などの連携を強化する。 ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 ・長岡市災害復興文庫展や図書館総合展などをとおして、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由
		・長岡市災害復興文庫事業を推進し、市民協働と情報発信に努め、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信した。これにより、他の被災地の自治体・関係機関からの視察や連携につながった。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、長岡市災害復興文庫事業を推進し、長岡市資料整理ボランティアとの市民協働、全国の関係機関・団体との連携、第１９回図書館総合展での発表などをとおして、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国発信し大きな反響があった。

（３）個別事業の実施結果について

①　貴重資料の公開

＜目的・概要＞

・中央図書館のエントランスでの貴重資料展示回数を確保するとともに、図書館報「図書館の窓から」で紹介し、市民に所蔵資料を紹介する。

ながおかネットミュージアム	エントランス展示
 牧野忠精画　富嶽画	 高橋翠村の書を展示

＜実績＞

①　ながおかネットミュージアム

（平成２９年度実績）牧野忠精画　「富嶽画」等の軸物１６点を追加した。

（平成２８年度実績）藩主牧野氏関係資料の貴重資料の軸物１４点を追加した。

②エントランス展示回数

（平成２９年度実績）　１６回

（平成２８年度実績）　１６回

「図書館の窓から」で紹介している所蔵資料を展示したほか、堀直奇の書状、堀口九萬一の軸物など図書館資料１６点の紹介を行い、貴重資料を数多く市民に公開する機会となった。

そのほか長生橋の８０周年にあわせて長生橋の紙芝居をエントランス展示した。

貴重資料を活用し、図書館開館 100 周年の記念グッズを作成した。

＜課題・今後の方向性＞

・約２００点の貴重資料をネットミュージアムで公開しており、将来のオープンデータとしての公開も視野に入れながら、計画的に貴重資料などのデジタルデータ化を進めていく必要がある。

・デジタルアーカイブを構築する図書館が増加しており、全国的な傾向を参考にしながら今後の展開と活用を考えたい。

②　郷土資料の充実

＜目的・概要＞

・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料についてより一層の充実を図る。

・図書館の開館 100 周年や開府 400 年、戊辰戦争 150 年を意識した資料の充実を図る。

・行政からの収集のほか、新聞・雑誌などの媒体からの情報収集を行い、幅広い資料の収集に努める。

・図書館未設置地域に関する郷土資料は中央図書館にて継続して収集する。

＜実績＞

全館（中央館と地域館すべて）の郷土資料蔵書数

	全館郷土資料蔵書数 （各年度３月３１日現在の所蔵）	前年比 増加冊数
平成２５年度	84,787 冊	2,744 冊
平成 26 年度	88,053 冊	3,266 冊
平成２７年度	91,143 冊	3,090 冊
平成 28 年度	94,465 冊	3,322 冊
平成２９年度	96,412 冊	1,947 冊

・新聞や、雑誌に掲載された郷土資料について情報を収集し、迅速な発注・寄贈依頼、登録を行った。

・開府 400 年や戊辰１５０年、大河ドラマの影響もあり当館の貴重資料や郷土資料を使用した出版物が増加したが、郷土資料全体の増加には繋がらなかった。

・開府 400 年にあわせてデジタル撮影を行い長岡開府 400 年記念事業実行委員会のＨＰでＰＲに使用し郷土資料の提供、活用を行った。

＜課題・今後の方向性＞

・郷土資料の収集においては、地域の情報を新聞や出版案内を基に情報収集するとともに、すべての支所地域を網羅的に収集する必要がある。

・毎年度定期的に市役所各課に資料寄贈依頼を行っており、一定の量の収集を行っているが、今後は各支所に積極的に働きかけるなど、支所地域の資料の収集に力を入れていく必要がある。

・書庫の収蔵能力を超えており、適切な資料の保存管理ができない時期をむかえている。資料を見極め、大幅な除籍を進めることで利用者に新鮮な情報を提供できるよう努めていきたい。

③　古文書等の歴史資料の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、文書資料室が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座の開催、長岡市史双書の刊行を行う。また郷土の歴史資料を守るため、歴史資料所在確認調査を行い、歴史資料の取扱いについて相談を受け付けている。

・古文書等の歴史資料の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。

長岡市史双書№57	長岡市史双書を読む会

＜実績＞

古文書等の歴史資料の保存・公開に努めた。古文書等の歴史資料を活用し、各種講座の開催・長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。

（今年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	３回	１２３人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	６回	３３３人	中央公民館
長岡市史双書を読む会	３回	２７０人	中央図書館
古文書相談の日	３回	１６人	文書資料室

・新たに公開した古文書等の歴史資料の件数　２１件　内寄贈２０件・移管１件・寄託０件

・長岡市史双書№５７『大正記念長岡市立互尊文庫　市立図書館の開館と戦災復興』800 部刊行

・歴史資料所在確認調査　与板地域を調査。調査箇所　１か所

・歴史資料取扱い相談受付数　１１件　　内訪問調査回数　５件

（昨年度実績）

・各種講座の開催

講　座　名	回数	参加人数	会　　場
古文書解読講座「古文書のいろは」	3回	129 人	中央公民館
古文書解読講座「古文書にみる長岡のすがた」	6回	302 人	中央公民館
長岡市史双書を読む会	3回	195 人	中央図書館
歴史資料保存講座	1回	１５人	中央公民館

・長岡市史双書№.５６『近代長岡の雑誌(2)「温古の栞」と大平与文次・温古談話会』600 部刊行

・歴史資料所在確認調査　与板地域を調査。調査箇所　２か所

・歴史資料取扱い相談受付数　１７件　　内訪問調査回数　１１件

＜課題・今後の方向性＞

・古文書解読講座は定員を上回る参加希望者があるため、新規参加希望者が受講しにくい状況がある。広報の方法等を工夫して、現在の参加者を確保しつつ、更なる層を開拓していく必要がある。

・古文書等の歴史資料は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史資料を後世に伝えていくための意識付けをはかる普及活動を行っていきたい。

④　歴史公文書の収集・保存・活用

＜目的・概要＞

・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。

・歴史公文書の目録を作成し、市役所での内部公開を検討する。

・災害復興関連の歴史公文書は長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱	歴史公文書の整理作業

＜実績＞

（今年度実績）

・歴史公文書の目録件数　990 件（103 箱）　内長岡市災害復興文庫の歴史公文書１４９件（２６箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　３件

（昨年度実績）

・歴史公文書の目録件数　1,123 件（115 箱）　内長岡市災害復興文庫の歴史公文書 259 点（33 箱）

・保管場所　旧半蔵金小学校・旧種苧原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など

・歴史公文書の問い合わせ件数　５件

＜課題・今後の方向性＞

・庶務課と連携して目録の内部公開に向けてさらに協議を進める必要がある。

・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討し、長岡市のガイドラインを作成する必要がある。

⑤　長岡市災害復興文庫の収集・整理・保存・活用

＜目的・概要＞

・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。

・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。

・災害復興関連の歴史公文書を災害復興文庫の資料とする。

・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新、講習会への講師派遣などの連携を強化する。

・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。

・長岡市災害復興文庫展や図書館総合展などをとおして、県内外に情報発信を行う。

長岡市災害復興文庫展 2017	長岡市資料整理ボランティア

＜実績＞

（今年度実績）

・長岡市災害復興文庫事業

※展示会や刊行物などについて、広報編集課と連携して、年度をとおして報道機関へ取材依頼し、市民への広報に努めた。

〇十日町市古文書整理ボランティア＆長岡市資料整理ボランティア交流会 in こらっせ（長野県栄村）の開催

参加者　32 人（長岡 18 人、十日町 14 人）

〇長岡市災害復興文庫展 2017 企画展「震災避難所の記録と記憶」及び記念シンポジウム「あつめる・整理する・つたえる～震災復興と図書館のアーカイブ機能～」の開催

企画展期間:10 月 28 日～11 月５日　場所:中央図書館１階　エントランス

関連行事：文書資料室職員による展示解説会（２回）

記念シンポジウム期日:10 月 28 日　場所:中央図書館２階　講堂

講師：稲葉洋子氏（帝塚山大学非常勤講師)、河瀬裕子氏（くまもと森都心プラザ図書館長）

〇関連書籍の刊行（再版・頒布）

『新潟県中越地震・東日本大震災と災害史研究・史料保存』　７００部

〇国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に中越大震災時に中央図書館で撮影された記録写真約 60 点を新規コンテンツとして追加した。

〇第１９回図書館総合展のスピーカーズコーナーのイベントで情報発信

期日:11 月７日　場所:パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

イベント名:災害アーカイブ構築のノウハウ（主催:図書館総合展事務局・防災科学技術研究所）

参加者数：約 60 人

・長岡市資料整理ボランティアは、延べ１６回活動、延べ１６６人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で１回活動、41 人の参加があった。

・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）に加盟し、神奈川県相模原市で開催された全国大会に参加した。

（昨年度実績）

・長岡市災害復興文庫展示 2016「長岡と福島・南相馬～絆の記憶と記録～」などを開催した。

・長岡市資料整理ボランティアは、延べ１４回活動、延べ１９８人の参加があった。

・新潟歴史資料救済ネットワークは、山古志地域で全２日活動、延べ３３人の参加があった。

・第 18 回図書館総合展、「東日本大震災に関する書類・写真の整理・保存講習会～被災支援活動の経験・ノウハウを活かすために～」（主催：国立国会図書館、会場：福島県福島市）等で長岡市の活動を報告した。

＜課題・今後の方向性＞

・平成 26 年 10 月に開設した「長岡市災害復興文庫」の市民へのＰＲを継続するとともに、歴史公文書の収集・保存などの充実を図っていく必要がある。

・今後も、全史料協の活動などをとおして、県内外の文書館・図書館・博物館とのネットワークの構築を図るとともに、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどとより一層の連携を図る必要がある。

２　課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について

①中高生向け図書館しごと応援事業

事業概要	・若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。	
評価	A	評価理由
		・仕事に関する資料を１ヶ所にまとめたことで、新しい利用を促すことができた。

②庁内行政支援レファレンス

事業概要	・市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をＰＲし、行政との連携を強化する。	
評価	A	評価理由
		・順調に依頼を受けており、回答も迅速に行っている。

③子ども連れへのサービス

事業概要	・子どもの読書活動を支援するために、子育て世代が利用しやすいサービスを提供する。 ・地域図書館では、子育て世代の利用者にも、図書館を気軽に利用してもらえるような取り組みを実施する。	
評価	A	評価理由
		・児童室の環境整備や興味をひくイベントを通じて、子育て世代が利用しやすいサービスを提供することができた。

④図書館の環境整備

事業概要	・快適にご利用いただけるよう空調設備の入替等環境を整備する。	
評価	A	評価理由
		・経費面の制約はあるが、優先順位をつけ整備を行った。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・利用者のニーズに応じたテーマコーナーの設置や、施設改修により、利用者の利便性が向上した。

（３）個別事業の実施結果について

①　中高生向け図書館しごと応援事業

＜目的・概要＞

若者向けのビジネス支援や将来の職業を考えるための資料などを提供し、「若者自らが魅力を生み出すまちづくり」を積極的に応援する。

夏休みボランティアプログラムに、データベースを使った調査体験を行う。

「若者よ、大志をいだけ！」長岡しごと応援隊

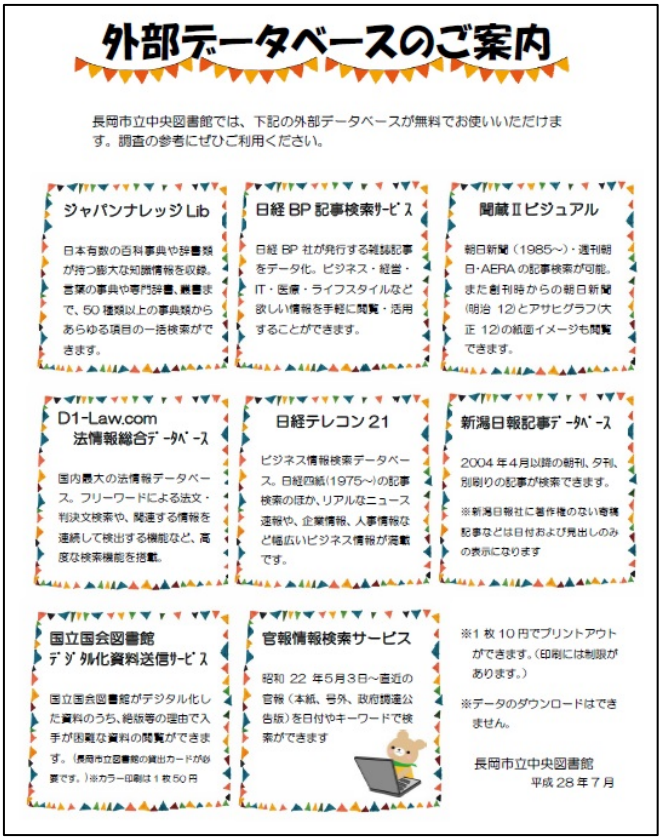
＜実績＞

特設コーナーを設け、資料を約５７０冊用意した。

資格関連図書やお仕事小説など幅広く購入することができ、利用につなげることができた。

職場体験や夏休みボランティアに参加した中高生に、オンラインデータベースを使って回答する問題に取り組んでもらった。

書架を追加購入した。資料を見やすく整理して並べることができた。



外部データベースのご案内

長岡市立中央図書館では、下記の外部データベースが無料でお使いいただけます。調査の参考にぜひご利用ください。

ジャパンナレッジLib
日本有数の百科事典や辞書類が持つ膨大な知識情報を収録。言葉の事典や専門辞書、辞書まで、50 種類以上の事典類からあらゆる項目の一括検索ができます。

日経 BP 記事検索ｻｰﾋﾞｽ
日経 BP 社が発行する雑誌記事をデータ化。ビジネス・経営・IT・医療・ライフスタイルなど欲しい情報を手軽に閲覧・活用することができます。

聞蔵Ⅱビジュアル
朝日新聞（1985～）・週刊朝日・AERA の記事検索が可能。また創刊時からの朝日新聞（明治 12）とアサヒグラフ（大正 12）の紙面イメージも閲覧できます。

D1-Law.com 法情報総合ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ
国内最大の法情報データベース。フリーワードによる法文・判決文検索や、関連する情報を連続して検出する機能など、高度な検索機能を搭載。

日経テレコン 21
ビジネス情報検索データベース。日経四紙（1975～）の記事検索のほか、リアルなニュース速報や、企業情報、人事情報など幅広いビジネス情報が満載です。

新潟日報記事ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ
2004 年 4 月以降の朝刊、夕刊、別刷りの記事が検索できます。
※新潟日報社に著作権のない寄稿記事などは日付および見出しのみの表示になります

国立国会図書館 ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化資料送信ｻｰﾋﾞｽ
国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料の閲覧ができます。（長岡市立図書館の貸出カードが必要です。）※カラー印刷は 1 枚 50 円

官報情報検索サービス
昭和 22 年 5 月 3 日～直近の官報（本紙、号外、政府調達公告版）を日付やキーワードで検索ができます

※1 枚 10 円でプリントアウトができます。（印刷には制限があります。）
※データのダウンロードはできません。

長岡市立中央図書館
平成 28 年 7 月

外部データベースのポスター

＜課題・今後の方針＞

国会デジタル化資料送信サービスや朝日新聞データベースの地方紙面提供開始など、オンラインデータベースのサービスも広がり、少しづつ利用も増え始めた。

中・高校生世代の利用をさらに伸ばすような工夫が必要であるため、さらなる広報を続けていきたい。

②　庁内行政支援レファレンス

＜目的・概要＞
市の行政に関する調査について、図書館資料を用いて支援することで、図書館の有用性をアピールし、行政との連携を強化する。
＜実績＞
29 年２月から開始したサービスであるが、２９年度は 13 件の問い合わせがあった。 例）議会総務課・・・長生橋の名前の由来について 教育総務課・・・長岡のゴミ処理が掲載された本について 広報課　　・・・花火財団作成のパンフレットについて
＜課題・今後の方針＞
行政への支援を足掛かりに、他の企業や一般利用者からのビジネスに関するレファレンスに活かせるようにスキルを磨いていく必要がある。 市役所業務においても、課題解決の支援ができることをアピールをしていく。

③　子ども連れへのサービス

＜目的・概要＞

乳幼児における読書活動の推進を図るために、子育て世代が利用しやすいサービスを提供する。

地域図書館では、子育て世代の利用者にも、図書館を気軽に利用してもらえるような取り組みを実施する。

＜実績＞

子ども用カートを１台追加した。休日を中心によく利用され、好評である。

おはなしの部屋に、パーツを取り外して遊べるタペストリーやぬいぐるみを置き、子どもたちがすごしやすい工夫をしている。

夏休みやお正月など、スペシャルの読み聞かせ会はとても盛り上がり盛況だった。

地域図書館では、利用者がどのような事業を望み、今後それぞれの館でどう運用していくかを検討するために、試験的に特定の館で下記事業を実施した。

①南地域図書館『絵本セラピー®講座「大人に、絵本」』…月に１回定例のおはなし会後に、基礎絵本セラピスト®の資格を持つ図書館スタッフによる、ミニ絵本セラピー®講座を実施

②北地域図書館『としょかんＤＥおやこタイム』…図書館の利用方法の紹介や撮影コーナーなどを取り入れたおはなし会、終了後に会場をコミュニケーションの場として一時的に開放

③中之島地域図書館『おはなしひろば０１２』…乳児や未就学児の親子も参加できるおはなし会

④寺泊地域図書館『おやこタイム』…月１回実施している定例おはなし会後に実施

参加した利用者からは好評で、継続を望む声もあった。

タペストリー

ちびっこタイム夏休みスペシャル

よっといで！カルタとり

＜課題・今後の方針＞

平日のおはなし会の参加者が伸び悩んでいるので、広報活動を続けていきたい。

読み聞かせボランティアとの連携を図り、プログラムの工夫を検討したい。

来年度は各地域図書館にて、定期的もしくは特別行事内の一部として『おやこタイム』の導入を行う予定。一時的に賑やかな場となることが予想されるため、他の利用者へご理解いただくための周知を行ったうえで実施する。

子どもたちには、公共の場でのマナーを伝え、一般利用者には配慮を求めながら、多くの利用者が気持よく利用できるよう働きかけていく必要がある。

④　図書館の環境整備

＜目的・概要＞

図書館を快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

＜実績＞

日常の点検や利用者のご意見等から、必要なものを選び、優先順位をつけ整備・改修を行った。

具体的には、当初計画により、中央図書館正面入口の階段及びスロープに手すりを設置し、西地域図書館の空調設備及び美術センターの壁面を改修した。また、１階多目的トイレを洗浄便座（ウォシュレット）に改修し、見えにくくなっていた西側駐車場の白線を引きなおす等の追加整備を行った。

中央図書館　正面玄関

中央図書館　スロープ

＜課題・今後の方針＞

設備の老朽化により、快適にご利用いただくためには、改修しなければならない設備が多くなっている。

限られた予算の中では、少しずつしかできないのが現状である。

３　市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

（１）重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

<table>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="2">・毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価</td><td rowspan="2">A</td><td>評価理由</td></tr>
<tr><td>・アンケートにより利用者のニーズを把握し、業務に活かすことができた。</td></tr>
</table>

②友の会事業

<table>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="2">・利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通して図書館を応援する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価</td><td rowspan="2">A</td><td>評価理由</td></tr>
<tr><td>・絵本専門士を招いてのおはなし会等、新しい催しに取り組むことができた。</td></tr>
</table>

③ご意見ポストの設置

<table>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="2">・寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価</td><td rowspan="2">A</td><td>評価理由</td></tr>
<tr><td>・評価はおおむね良好であり、意見への対応も全て検討し可能な限り改善した。</td></tr>
</table>

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・おおむね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

（３）個別事業の実施結果について

①　利用者アンケート

＜目的・概要＞

・例年どおり実施し、昨年との比較や現状の利用者の意見を把握する。

アンケート項目

【中央図書館】	【地域図書館】
〈利用者アンケート〉 ○ 館内や本棚の表示はわかりやすいですか ○ 本の種類は充実していると思いますか ○ ご来館の目的は何ですか？ ○ 今後どのようなサービスを希望しますか？ など	＜利用者満足度アンケート＞ ○スタッフについて 　挨拶や言葉づかい、接客対応など（３項目） ○施設の快適さについて 　設備、分かりやすさ、案内情報(４項目) ○図書館サービスについて 　資料の充実、展示物などについて(５項目)

＜実績＞

○　中央図書館のアンケート

昨年同様８月に６日間のアンケートを実施した。アンケートは時間を決めてエントランスで配布。夏休みボランティアに参加している中学生に配布を手伝ってもらったところ、利用者の反応がよかった。窓口応対については、「大変よい」＋「よい」が 87.9%と好評をいただいた。「大変よい」が 36.7%から 40.5%に上昇し、例年にない満足度を上げることができた。

（今年度実績）　配布数　912　回収数　730　回収率　80.04%
（昨年度実績）　配布数　788　回収数　658　回収率　83.50%

○　アンケート結果への対応

窓口応対については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。

大活字本や、今年度新設した歴史時代小説コーナーが好評だった。

○　地域図書館のアンケート

（今年度実績）　配布・回収数　793（全て回収）

（昨年度実績）　配布・回収数　1,497（全て回収）

昨年度は「指定管理者施設利用者満足度調査」を兼ね重点的に行ったが、今年度は通常通りお声掛けしたため、昨年よりも回収枚数が減少した。スタッフに関する設問についてはどの館も高い評価をいただいた。

＜課題・今後の方針＞

(中央図書館)

・自由意見の中でも、窓口対応に感謝してくださる意見が多くみられた。

・新刊や CD など視聴覚資料の充実を希望する意見が多かった。新刊は、予約本として予約棚に別置きされることが多く、予約制度の活用を促したい。視聴覚資料は、民間のＣＤレンタル店と競合しないように留意しており、図書館らしい収集に努めている。

・満足度の高い図書館を目指すため、アンケートの実施方法などを検討する必要がある。

・アンケート調査を分析し、利用者の声を図書館運営やサービスの改善に結びつけていく必要がある。

(地域図書館)

・所蔵している本、雑誌や新聞の種類の充実についての満足度が低い結果となった。特に中央図書館と比較され、「新しい本が少ない」「視聴覚資料を入れて欲しい」といったご意見ご要望も多かった。新刊は受入後すぐに予約に回ってしまう場合が多く、また視聴覚資料については南館（ユニバーサル資料）や中之島館しか予算を持っていないため、地域図書館での購入増は難しい。

②　友の会事業

＜目的・概要＞

図書館支援団体として図書館と連携し、活動を運営に活かす。

なりふ古本市・映画会	図書館視察
１０月９日（月・祝）13 時～１５時３０分 店主８名（うち図書館員３名） 布絵本紹介２名 読み聞かせ講師２名	６月２１日（水） 視察先　三条市立図書館栄分館 新発田市立中央図書館 参加者　１８名（図書館職員同行２名）
【内容】 ・古本市、映画会、布絵本の展示、講師（絵本専門士）による読み聞かせ、工作 【成果】 ・１２０冊を販売し、５，４０５円の売り上げがあった。売り上げの３割、１，６２０円を社会福祉協議会のともしび基金へ寄付した。 ・おはなし会の参加者は約１８名。	【内容】 ・視察先の職員から館内の案内や活動概要の説明を受けることができ、参考になった。 ・栄分館では、蔵書数約１，６００冊というしかけ絵本を中心に見せていただいた。しかけ絵本は傷みが激しいため、修理専門のボランティア団体が定期的に補修を行っているとのこと。

＜実績＞

３回目となる「なりふ古本市」では、会員同士の交流や市民との本を通じた交流を持つことができ、有意義な時間となった。残った資料も、フェニックス大手イースト前歩道で実施した「しぇあ☆ぼン」に提供し、活用することができた。また、講師を招いてのおはなし会という新しい取り組みに挑戦できたことは、今後、活動を盛り上げていく上で良い機会となった。

来年度も古本市を開催できるよう、準備を進めていきたい。

（今年度実績）

なりふ古本市・映画会開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など

個人会員　４３名　賛助会員　５口

（昨年度実績）

なりふ古本市開催、書架整理、おはなし会、布絵本の会、つぐみの会、など

個人会員　３７名　賛助会員　５口

＜課題・今後の方針＞

古本市等のイベントを通して、幅広い世代に友の会について知ってもらい、新規会員の加入促進に繋げたい。また、今後も会員が主体となった企画・運営の取組みの支援が必要。

③　ご意見ポストの設置

＜目的・概要＞

・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。

・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。

＜主な要望＞

（中央図書館）

○ 駐車場の白線が消えかかっているため、整備してほしい。

○ 「●●●」に関する資料を入れてほしい。

開館時間を延長してほしい。

など

（地域図書館）

○２、３階で飲み物を飲めるようにしてほしい

○私物の本にブックコート（ブックカバー）をつけてほしい

○館内で勉強を教えている家庭教師のような人がいた。また、他の人のパソコンのキータッチの音がうるさい。

など

＜実績＞

（中央館）

・毎月意見を集約し、可能な限り対応した。

・窓口応対については、おおむね好評価をいただいている。

・意見を受けて、駐車場の白線の引き直しを随時行っている。

・資料に関する要望には、可能なものはその都度対応した。

（地域館）

・２階、３階にも図書館資料があることや１人１人が独立した席ではないため、汚損の可能性があることから、１階と３階のロビーでの飲食にご協力いただきたいと回答。

・お子さんからのご要望だったので、小学５・６年生を対象とした「一日図書館員」にご参加いただければ体験が可能、個々には対応できないと回答。

・館内の巡回、注意喚起をするポスター等を増やした。また、パソコンを使用する人にはパソコン使用時の注意点やパソコン使用札を渡すことで、こちらも声を掛けやすい状況を作った。

＜課題・今後の方針＞

普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったので、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。

４　積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する。

（１）重点事業の事業別評価について

長岡市立図書館では、子どもから高齢者までを対象に広く事業を行っている。今年度の事業から４点を選び評価を行う。

①「詩人堀口大學と長岡展」の開催【長岡市立図書館 100 周年プレイベント】

事業概要	・新潟県立近代美術館の「堀口大學展」と連携し、長岡ゆかりの詩人堀口大學と当館所蔵の堀口大學コレクション等の貴重資料を広く紹介する。	
評価	A	評価理由
		・平成 30 年の長岡市立図書館開館 100 周年を前に、図書館所蔵資料の重要性や、教育・文化に寄与する図書館の役割を紹介することができた。

②各種機関と連携した事業の実施

事業概要	・他の行政機関が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。	
評価	A	評価理由
		・テーマコーナーにおける資料紹介や出張展示などさまざまに連携を図ることができた。

③子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	・平成２４年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」にもとづき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	A	評価理由
		読み聞かせボランティア養成講座や、学校でのブックトーク等をはじめ、子ども読書活動推進につながる数々の行事を実施することができた。

④地域図書館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<table>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="2">・近隣団体、学校、地元商店街等との繋がりをさらに深め、連携した行事を積極的に実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">評価</td><td rowspan="2">A</td><td>評価理由</td></tr>
<tr><td>・各地域図書館が持つ特色資料の関連事業の他、近隣の学校や団体等と連携した事業も積極的に実施した。</td></tr>
</table>

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・中央図書館・地域図書館ともに、工夫をこらし、多様な事業展開に取組んだ。

（３）個別事業の実施結果について

① 「詩人堀口大學と長岡」の開催【100 周年プレイベント】

＜目的・概要＞

図書館が長きにわたり収集してきた郷土資料や堀口大學コレクション等の貴重資料を中心に約 400 点を展示し、長岡ゆかりの詩人堀口大學と地域の関わりを紹介した。

佐藤正二氏（長岡★堀口大學を語る会代表）による展示解説

大學の父で外交官だった堀口九萬一に関心を寄せるメキシコのアルマーダ大使が見学に訪れた

＜実績＞

・11 日間という短い会期だったが、1,227 人の入場者を得ることができた。

・次の工夫を行い、集客アップにつなぐことができた。

（関連行事等）

◆展示解説　４回　参加者数合計　140 人

◆文化講座「長岡藩と堀口家」　１回　参加者数合計　130 人

◆堀口すみれ子さんトークショー（ＮＰＯ法人長岡未来創造ネットワーク主催）連携・PR

◆新潟県立近代美術館「美と文学の探究者　堀口大學展」との連携・PR

（同時開催）

◆堀口大學展サテライト展示（１階エントランス）

◆堀口大學関連本コーナー（１階閲覧室）

・入場者アンケートからは、「堀口大學と長岡とのつながりがわかった」「資料が多く充実していた」「構成がわかりやすかった」「大學の詩を読みたくなった」「父九萬一や長岡藩の展示も良かった」「素晴らしいコレクションに感動した」「堀口大學を勉強したい」等の感想が寄せられた。

・一方で、「もう少し長く展示してほしい」「資料が多すぎて疲れた」「一部で良いので詩を大きく展示しては？」などのご意見もいただいた。

・新潟県立近代美術館の堀口大學展との連携は初の試みだったが、美術館と図書館がそれぞれの特性を生かして大規模かつ多方面から堀口大學を紹介することができた。両館とも鑑賞された方は少なくなく、相乗効果を上げた。また、両館合同で作成した図録は、堀口大學の関連資料を掲載した貴重な資料となった。

・本展は、郷土の偉人や歴史紹介など長岡の魅力を再発見する機会となり、地元への愛着や誇りの醸

成につながったことから、開府 400 年関連事業としても意義あるものとなった。

（昨年度実績）
「写真と資料で振り返る　長岡市制施行１１０年のあゆみ展」　２，５５２人（１５日間）

＜課題・今後の方針＞

図書館利用者（１階）の多くが、美術センター（２階）にも立ち寄って下さるよう、工夫が必要である。

②　各種機関と連携した事業の実施

＜目的・概要＞

・他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。

・長岡まちゼミ実行員会が開催した「まちゼミ」について、商業振興課の依頼により関連資料の紹介やブックリストを作成する。

・中心市街地整備室との協力を得て、まちなかの公共施設２か所にテーマ別の書籍展示を行う（名称、まちぼン）。

歴史博物館との連携展示	まちぼン（タニタカフェ）

＜実績＞

・７・８月に児童テーマコーナーで、県立歴史博物館の「クイズとたいけん！むかしのくらし」展と連携し資料展示を行った。

・10 月からの読書週間に合わせ、10 月から３月まで「まちボン」を実施。１か月ごとにテーマに合わせた本を展示し、施設の利用者に見てもらっている。市内の高校の図書委員のおすすめ本を展示するテーマもあり、高校との交流を作ることができた。

・「まちゼミ」で作成したブックリストは、ＨＰでも公開しており、図書の利用につながっている。

・２・３月の南相馬市立中央図書館主催展示会「記録を残していくということ～次の世代のために～」に長岡市災害復興文庫を紹介するパネル展示を行うことができた。

・他の機関と協力することで、双方の事業のＰＲを行うことができた。また、仕事の交流が生まれたことで、今後につながる関係を築くことができた。

＜課題・今後の方針＞

・今後もさまざまな関連分野での協力を行い、利用者に情報提供できるよう工夫を続ける必要がある。
・市民のニーズや時勢を見極め、各種機関との連携など柔軟な発想をもって多様な事業を展開していく必要がある。

③　子ども読書活動推進計画関連事業の実施

＜目的・概要＞

・平成２４年度に策定した「長岡市子ども読書活動推進計画」にもとづき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。

１．学校や家庭等での子どもの読書活動推進に役立つ講座を実施する。

２．希望のあった小学校及び中学校へ出向いてブックトークを実施する。

１．読み聞かせボランティア養成講座	２．ブックトーク
講師の読み聞かせに見入る参加者の様子	クイズや読み聞かせを交えながら本を紹介

＜実績＞

【読み聞かせボランティア養成講座】

・読み聞かせボランティア養成講座は、定期的に内容を変えて毎年度開催しているが、今年度は、現在活動されている方のスキルアップを目指した実践向けの内容で開催した。市内外の小学校を中心に、児童館や図書館で活動しているボランティアが受講し「選書の大切さを再認識した」「絵本の選び方や読み方の参考になった」「学校での読み聞かせに活かしたい」「科学絵本を知ることができた」などの感想が寄せられた。

・学校等のボランティアは、日ごろの活動の中で他の人の読み聞かせを見ることが少ないため、今回のグループワークを通じて自分を客観的に見直すことができた。また受講者同士で疑問に思っていることや悩みを聞くなど情報交換の場にもなり、子どもの良質な読書活動推進に向けてボランティアが連帯感を持つ良い機会となった。

（今年度実績）

読み聞かせボランティア養成講座（３回連続）経験者対象　※①のみ初心者も参加可

講師：野上千恵子氏（新潟子どもの本を読む会代表）　　参加者数：３６人

①　「絵本のたのしみをわかちあう　ー子どもたちと本をつなぐ　子どもたちと本でつながる」　　平成２９年９月３日（日）

②　「科学絵本を考える」　平成２９年９月１０日（日）

③　「本を選ぶ」平成２９年９月２４日（日）

（昨年度実績）

講師：伊藤美智子氏（野いちご文庫スタッフ）　②③は連続講座

① 「絵本のよろこび」　平成２８年９月２４日　　参加者数　３３人

② 「子どもと楽しむ季節のわらべ歌～春から夏のわらべ歌を中心に」
平成２９年１月１４日　　参加者数　３２人

③ 「子どもと楽しむ季節のわらべ歌～秋から冬のわらべ歌を中心に」
平成２９年１月２８日　　参加者数　３３人

【ブックトーク】

・希望のあった小学校及び中学校に訪問し、テーマを決めて本を紹介する「ブックトーク」を行う。ストーリーを紹介したり一部朗読したりしながら、子どもたちに「読みたい」という気持ちを持たせる。

・大勢の児童・生徒に本との出会いの機会を設けることができた。児童・生徒からも紹介した本やテーマへの興味がわいたといった声を数多く聞くことができ、読書活動推進の一助となった。

・昨年度まで実施していなかった中学校でのブックトークを１校実施することができた。

（今年度実績）平成２９年１２月末時点

公演回数　34 回（小学校 31 回、中学校３回）

参加者数　1,454 人（小学校 1,351 人、中学校 101 人）

（昨年度実績）平成２９年３月末時点

公演回数　29 回

参加者数　1,335 人

＜課題・今後の方針＞

・平成２９年度に策定される第二次長岡市子ども読書活動推進計画のもと、各世代の読書活動の推進のために、取り組み続ける。

【読み聞かせボランティア養成講座】

・子ども読書活動推進に有効で、ボランティアの問題解決に結びつくような講座にするため、学びたいこと、困っていることなどニーズの把握に努める必要がある。

【ブックトーク】

・中学校に対するＰＲの拡大。それに伴い、職員のスキルアップなど受け入れ体制の整備を行う必要がある。

④　地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

＜目的・概要＞

・近隣団体、学校、地元商店街等との繋がりをさらに深め、連携した行事を積極的に実施する。

・地域図書館全館の自主事業として行ってきた「図書館を使った調べる学習コンクール　地域コンクール」（市内全小学校対象）については規模拡大を目指し、また運営方法の見直しを図る。

＜取り組みごとの内容・評価・課題＞

〇特色資料、地域性を生かした事業の実施

しなのがわたんけん	Coffee meets Books
西館特色資料『信濃川』関連行事。信濃川河川事務所協力のもと、座学と実際に川に移動してのワーク形式で水生生物に関する講座を行った。	読書週間にあわせ、コーヒーセミナーと本の紹介を組み合わせたイベントを実施。

＜実績＞

【しなのがわたんけん】信濃川河川事務所にご協力いただき、信濃川の生き物等についてのお話と、越路河川公園での水生生物調査を行った。今回で５回目の開催。申込定員に達するほど人気が出てきており、夏休みの課題としても活用できるので、参加者からは好評の行事となっている。参加者数は、３２人。

【Coffee meets Books】読書週間にちなんだ事業を企業と連携して行った。全国的に人気のあるスターバックスコーヒーの講師によるコーヒーセミナーと、産地ごとの飲み比べを行いながら本の紹介を実施。休館日の夜に開催したこともあり、普段図書館イベントに申込みが少ない年齢層の方々からご参加いただけた。参加者数は、１６人。

その他にも各地域図書館で関連団体や学校と連携した行事をそれぞれ実施した。

互尊：「長岡空襲写真・体験画展示」（戦災資料館）

西館：「信濃川写真展」（信濃川河川事務所）

南館「越のむらさき見学会」「摂田屋醸造歴史さんぽ」（特色資料“醸造”、摂田屋地区の各醸造会社ほか）、「長岡農業高校出張園芸教室～リース作り～」（長岡農業高校）

北館：「中越高校写真部写真展」（中越高校）、
「全国花火大会ポスター展」「工作教室 花火玉づくりに挑戦！」（特色資料“花火”）、
「としょかんDEサイエンス教室」（長岡技術科学大学サークルＴＥＣ）

寺泊：「寺泊地域探訪『船絵馬を見に行きましょう』」（白山媛神社）

栃尾：「紙すき体験 紙すき工房へGO！」（サトウ工房）

＜課題・今後の方針＞

良い関係を繋げている各学校、団体や施設等とは今後も連携した事業を続けていきたい。定番となった事業も多いので、今後は利用者がどのような地域に関連する行事などを求めているか、情報収集にも努めていく。

○図書館を使った調べる学習コンクール地域コンクール

事前説明会	作品審査の状況
各図書館にて実施。百科事典の使い方や、作品づくりの始め方などを説明。年々周知されており、受け入れ可能人数以上の参加希望者がいる館も出てきている。	低学年から高学年まで幅広い応募があった。今年度は低・中・高学年ごとに審査を行い、受賞作品を決定した。

＜実績＞

昨年度の応募は市内１６小学校４２作品であったが、今年度は２０校の児童から６４作品の応募があり、昨年度に比べ参加校、作品数ともに増加した。７月に実施したサポート教室について、参加希望人数が増えており、受け入れ可能人数をオーバーした館ではお断りすることもあった。

前回課題としていた全学年一斉の審査方法に関して、今年度は低・中・高学年それぞれの応募作品数に大きな差がなく、その学年ごとに合わせた審査で受賞作品を選ぶことが出来た。

なお、今年度最優秀賞２作品を全国コンクールへ推薦出品し、奨励賞と佳作を受賞した。

＜課題・今後の方針＞

サポート教室は各図書館で実施していることが分かるようチラシに記載、日程についても同日開催を避けるなどの工夫をし、出来る限りの受け入れ態勢を整えたい。来年度も各学年より安定した作品数を集めることができれば、引き続き低・中・高学年ごとの審査方法を続けていきたい。

５　勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

（１）重点事業の事業別評価について

①外部研修

事業概要	・県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し図書館職員としてのスキルアップをめざす。	
評価	A	評価理由 ・県内外の研修に参加し、研修の概要を参加者が全体会議や係研修で報告し、情報の共有を図った。

②職場内研修

事業概要	・職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由 ・接遇研修やや同和問題研修など研修を行った。また、県立図書館と勉強会を行った。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・外部研修・職場内研修ともに予定通り実施し、成果を上げることができた。

（３）個別事業の実施結果について

①　外部研修

＜目的・概要＞

・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し図書館職員のスキルアップを目指す。

・地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度も積極的に参加する。

＜参加研修＞

①新潟県公共図書館新任職員研修　５月１７、１８日（参加中央館３名　地域館４名）
②障害者サービス担当職員養成講座　６月　７日～６月　９日（参加中央館１名）
③関東地区公共図書館協議会総会・研究発表会　６月２３日（参加中央館３名　地域館１名）
④第１回歴史資料保存活用研修会　７月　４日（参加中央館３名）
⑤著作権セミナー　７月２８日（参加中央館４名）
⑥新潟県学校図書館研修研究大会　８月２２日（参加中央館４名）
⑦新任図書館長研修　９月　５日～９月　８日（参加中央館１名）
⑧子ども読書レベルアップ研修　９月８日、９月１２日、９月２１日、１０月２７日（参加中央館１名　地域館４名）
⑨新潟県公共図書館中堅職員研修会　９月２８日（参加中央館３名　地域館４名）
⑩新潟県公共図書館児童部門研究集会　１０月１１日（参加中央館２名　地域館３名）
⑪全国図書館大会　１０月１３日（参加中央館２名）
⑫図書館総合展　１１月７～９日（参加中央館２名）
⑬第２回歴史資料保存活用研修会　１１月１７日（参加中央館３名）
⑭関東・甲信越静地区図書館地区別研修　１１月２８日～１２月１日（参加中央館１名）
⑮新潟県内図書館実務担当者会議　１２月　８日（参加中央館２名　地域館１名）
⑯レファレンス協同データベース事業フォーラム
「中高生向けレファレンスサービスとレファ協」　１２月１４日（参加中央館１名）
⑰新潟県公共図書館職員専門研修会　２月２７日（参加中央館２名　地域館４名）

＜実績＞

（今年度実績）　中央館　３８名　参加　　地域館　２１名　参加
（昨年度実績）　中央館　３６名　参加　　地域館　２６名　参加

・中央図書館では、昨年度と同様に県内外での研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。係研修で情報共有し、今後の業務に活かしたい。
・地域図書館では、県立図書館等が主催する研修に例年並みに参加することができた。

＜課題・今後の方針＞

〇中央図書館
・外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。

・今後も研修で得た情報・知識を職員間で共有しサービスの向上や業務改善に活かしていく必要がある。どういうサービスを実施していきたいのか、どうサービスを改善したいのかよく検討し、実施する研修・派遣する研修を選んでいきたい。

〇地域図書館

・全スタッフ対象の研修や、中央館主催、他市ＴＲＣ主催の職場内研修、県立図書館主催の外部研修参加は継続する。館ごとに在籍スタッフ数に差があるので、全館でシフト調整しながらスタッフが平等に受講できるよう配慮する。

・研修内容の情報共有がまだ行き届いていないため、引き続き手段を構築する必要がある。

②　職場内研修

＜目的・概要＞

・全体研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行ったりすることで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。

・地域図書館ではスタッフの能力育成のため年３回の全体研修を行っている。今年度は「広報活動」「業務改善」「長岡開府 400 年」「児童業務」に関する研修を実施。

＜研修内容＞

〇中央館

①【合同研修】同和問題研修　　５月３１日　講師：田中文書資料室長

②　火災報知機研修　　５月 31 日　講師：長岡電業

③　県立図書館訪問相談　　７月１３日　ＮＤＣ１０版について勉強会

④　研修報告など　　８月３１日

「障害者サービス担当職員養成講座」講師：野村主任

「おもてなしの心醸成研修」　　講師：渡辺主査

「ユニバーサル文庫について」　　講師：石井係長

「複写サービスと著作権」　　講師：長瀬主査

⑤　消防避難訓練・ＡＥＤ講習会　　１０月３１日

⑥【合同研修】新潟県立図書館訪問研修　１１月３０日

絵本など糸綴本の修繕方法について　講師：新潟県立図書館職員　坂井氏

⑦【合同研修】おもてなしの心醸成研修 in 図書館　１月３１日　講師：出川恵子氏

⑧【合同研修】図書館職員研修　２月 28 日　　互尊翁と互尊文庫　講師：稲川明雄誌氏

⑨　研修報告会　　２月 28 日

「レファレンス協同データベース事業フォーラム」講師：大塚嘱託員

「関東甲信越静地区図書館地区別研修」　　講師：田村主事

「全国図書館大会　東京大会」　　講師：井口主査

「子ども読書レベルアップ講座」　　講師：長瀬主査

〇地域図書館

＜ＴＲＣ内部研修＞※全地域館スタッフが参加

① 長岡全体研修　６月３０日　図書館でのSNS活用　講師：ＴＲＣ本社広報課　尾園 清香

図書館の広報活動　講師：高山市図書館　　打保 秀一館長

② 新潟県合同研修　１０月３０日、３１日

仕入部のお話 ストックブックスについて　講師：ＴＲＣ仕入部　松村 幹彦

業務改善について　講師：ＴＲＣ東日本エリアマネージャー　高橋 理恵

燕市立図書館　高久 浩昭館長

③ 長岡全体研修　２月２８日

長岡開府400年について　講師：開府400年記念事業推進室　品田 満室長

「読み聞かせ」について考える 講師：ＴＲＣ品川区江戸川区エリアマネージャー　樋口 右子

※個人情報保護研修　８月１６日（各地域館責任者向け）、８～１２月（各館ごとに実施）

＜中央館、他市ＴＲＣ研修への参加＞

①【中央館】同和研修　５月３１日（４名参加）　講師：文書資料室　田中 洋史室長

②【新潟】クレーム対応研修　７月４日（１名参加）

講師：新潟市立中央図書館サービス課　辰口 裕美課長補佐

③【三条】ＴＲＣコーチング研修　９月２９日（４名参加）

④【中央館】新潟県立図書館訪問研修　１１月３０日　（１０名参加）

絵本など糸綴本の修繕方法について　講師：新潟県立図書館職員　坂井氏

⑤【中央館】おもてなしの心醸成研修 in 図書館　１月３１日　講師：出川恵子氏（７名参加）

⑥【中央館】互尊翁と互尊文庫　２月２８日　講師：稲川明雄氏（４名参加）

＜実績＞

（今年度実績）　中央館　９回実施　地域館　３回実施

（昨年度実績）　中央館　１０回実施　地域館　４回実施

中央図書館ではＴＲＣと合同全体研修を３回行ったほか、県立図書館と「日本十新分類法第１０版」について勉強会を行った。また、外部研修に派遣された職員が、研修内容について報告を行い、職員全体の専門性を向上・情報を共有した。

地域図書館では指定管理更新に向け、今後考えていくべきテーマを取り上げ、スタッフの意識付けを行った。また、平成３０年が「長岡開府４００年」「長岡市立図書館１００年」という節目の年でもあることから、関連する研修を実施。

＜課題・今後の方針＞

中央図書館では、外部講師による研修を希望する職員が多いことから、他部局の市職員を講師として有効活用するとともに、今後とも様々な手段で研修の機会を設ける必要がある。また、あわせて、障害者差別解消法の施行などに対応するため、勉強会や自主研修の充実を図る必要がある。

地域図書館では、昨年度同様に研修形態の見直しが必要。各地域館から全スタッフを参加させるために、全館休館となる月末日を利用しているが、特別開館日や夏休み期間などの繁忙期、雪の多い時期を除くと実施できる月が限られてしまう。また、雨漏りによる中之島文化センター休館に伴い、会場手配にも影響が出たため今後検討が必要である。

６　子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

（１）重点事業の事業別評価について

①第二次長岡市子ども読書活動推進計画の策定

事業概要	・第一次計画が満了することを受け、第二次計画を策定する。	
評価	A	評価理由 ・策定委員会を立ち上げ、委員会や担当ワーキング会議を重ね、第二次計画を策定した。

②中高生向け図書館イベントの実施

事業概要	・図書館利用の少ない若者の図書館及び図書の利用増大を図る。 ・図書館の利用方法に関する問題を入れることにより、図書館の利用方法について学んでもらう。	
評価	B	評価理由 ・アンケートより、昨年度より参加者の満足度は向上したが、昨年度より参加者が減少した。

③米百俵号による特別巡回の実施

事業概要	・地域で開催されているイベントで米百俵号による資料の貸出を実施する。広く市民の目に触れることで、図書館及び米百俵号の利用の拡大を図る。	
評価	A	評価理由 ・今年度から実施回数を増やし、支所地域のイベントでも実施することができ、より広範囲に米百俵号及び図書館をＰＲすることができた。

④としょかんクリスマススペシャルコンサートの実施
【長岡市立図書館 100 周年プレイベント】

事業概要	・プロによる楽器の生演奏や、楽器体験、絵本の朗読と音楽のコラボなどを楽しんでもらう。音楽と本をつなぎ、図書館の利用拡大を図る。	
評価	A	評価理由 ・コンサートを通じて、普段図書館を利用しない親子づれなどが気軽に図書館を利用する機会となり、図書館への関心を高め利用拡大につながった。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・様々な行事を通じ、子どもの読書活動の推進につながる活動ができた。

（３）個別事業の実施結果について

①　第二次長岡市子ども読書活動推進計画の策定

＜目的・概要＞

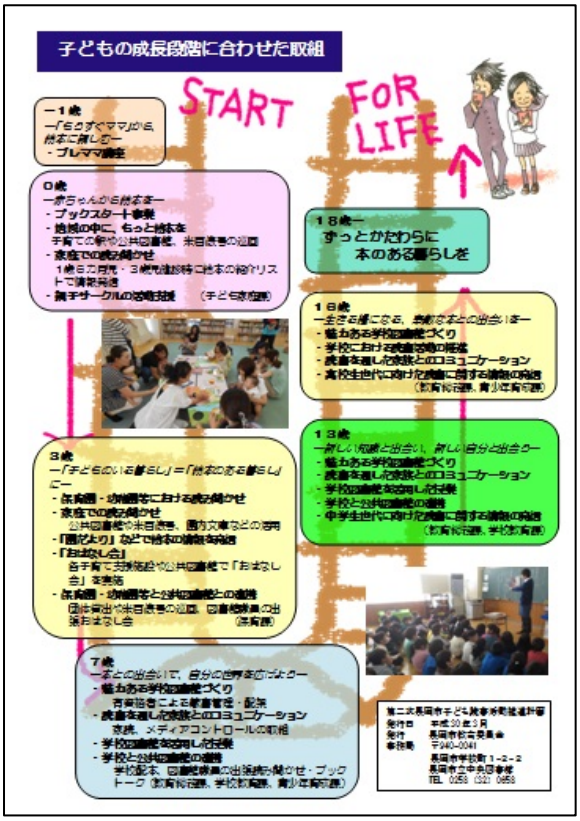
第一次計画から５年が経過することを受けて、第二次計画を策定する。策定には、公募委員を含む策定委員会を立ち上げて、内容を検討する。

第二次計画における基本方針

●成長段階に応じた読書環境の整備を進めます。特に、子どもの読書習慣の形成に大きな影響をもつ、乳幼児期における家庭での読書活動に重点をおきます。

●子どもの自主的な読書活動を推進するために、家庭・地域・学校・図書館等の関係機関の連携を強化します。

●情報メディアの普及による社会情勢の変化を踏まえ、読書に親しむ機会の充実を図ります。



第二次長岡市子ども読書活動推進計画（案）概要版

＜実績＞

２回の策定委員会、３回のワーキング会議を重ね、さまざまな意見を取り入れ計画を策定することができた。関係各課も読書活動のための予算要求を行うなど、連携がより深まった。

＜課題・今後の方針＞

関係各課と協力し、子どもの読書活動推進のための施策を続け、子どもが自ら本を読む環境を整えていく。

②　中高生向け図書館イベントの実施

＜目的・概要＞　図書館謎解きゲーム　怪盗Ｘからの挑戦状

・若年層に人気の「脱出ゲーム」を開催することで利用の少ない若者の図書館及び図書の利用増大を図る。また、ゲーム内で行う謎解きに、図書館の利用方法に関する内容を入れることによって、参加者に図書館の利用方法について学んでもらう。

・図書館のどこかに掲示してある問題を見つけ、その謎を解いていく。

＜実績＞

・参加者からは、「難しかったけど楽しかった」「また参加したい」という感想を多くいただいた。

・ブックリストの作成や、図書館の各コーナを回ってもらうような問題を作成することで、図書館を良く知ってもらうよう工夫できた。

・昨年度より開催日数が減少した影響か、参加者数が減少した。

（今年度実績）

参加者数　２２組：３７人（昨年度３２組：５７人）

内正解者数　７組　全体の約３０％（昨年度４組　全体の約１３％）

＜課題・今後の方針＞

・Facebook にて周知したところ、1,400 人ほどの人が記事を見てくれた。しかし、それがイベントへの参加には繋がらなかった。

・アンケートにて、イベントを知ったきっかけが館内のポスターという回答が多かった。それ以外の広報については効果が薄かったとも考えられるので、今後は図書館以外での広報について再検討していきたい。

③　米百俵号による特別巡回の実施

＜目的・概要＞

・地域で開催されているイベントに参加し、自動車文庫「米百俵号」による資料の貸出・返却、貸出カードの作成等を行う。

・広く市民の目に触れることで、図書館及び米百俵号の利用の拡大を図る。

イベントに合わせて、米百俵や長岡の歴史に関する資料コーナーを設置。（米百俵まつり）

車内の様子。多数の来場者の利用があった。（みしま産業まつり）

＜実績＞

・米百俵号を初めて見たという方や、以前利用したことがあり久しぶりに乗車したといった声が聞かれ、広く図書館や米百俵号のＰＲする機会となった。

（今年度実績）

５回実施　利用者数 824 人　貸出冊数 330 冊（平成 30 年３月末時点）

①かかしまつり	8/17(木)	利用者数 20 人	貸出冊数７冊
②とちびまつり	9/30(土)	利用者数 65 人	貸出冊数 54 冊
③米百俵まつり	10/7(土)	利用者数 374 人	貸出冊数 104 冊
④みしま産業まつり	11/3(金)	利用者数 81 人	貸出冊数 97 冊
⑤雪しかまつり	2/17(土)	利用者数 284 人	貸出冊数 68 冊

（昨年度実績）

３回実施　利用者数 662 人　貸出冊数 285 冊（平成 29 年３月末時点）

＜課題・今後の方針＞

・より多くの市民が集まるイベントに参加し効果的なＰＲができるよう、支所及び主催者と綿密に打ち合わせをする必要がある。

・利用者数、貸出冊数を増やす工夫が必要である。

④　としょかんクリスマス★スペシャルコンサートの実施【100 周年プレイベント】

＜目的・概要＞

・楽器の生演奏や楽器体験、音楽と絵本の朗読のコラボレーションなどを楽しんでもらうことで、音楽と本をつなぎ、図書館の利用拡大を図った。

・今年度は 100 周年プレイベントとして位置付け、プロに演奏を依頼し、絵本の朗読に作曲した曲をつけてもらうなど、今までにないスペシャルなコンサートとなった。

演奏者：アンサンブル・オビリー（バイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバス）片野大輔氏ほか３名

曲目：クリスマスメドレーなど

絵本：『ぐりとぐらのおきゃくさま』　朗読者：渋谷範子氏（JPIC 読書アドバイザー）

第 1 部はプロの演奏家による本格的な演奏を楽しんだ。

休憩時間を利用しての楽器体験には大行列ができた。

＜実績＞

・普段図書館を利用しない親子連れなどの客層を含め 145 人の参加があった。図書館を知っていただく良い機会となった。
・プロによる生演奏、全体の構成（選曲・楽器体験・朗読）、会場の雰囲気（子どもにやさしい・クリスマス感など）、絵本の朗読と音楽のコラボなど、全般において「良かった」「またやってほしい」「楽しかった」などの感想をいただいた。
・一方で、子どもたちが騒ぐことへの苦情や、マナーを教えてはどうかといった意見もあった。

＜課題・今後の方針＞

・早い時期に定員 150 人に達してしまい、その後申込のあった数十名の方の申込みをお断りしたにもかかわらず、当日無断キャンセルが多く、空席が目立ってしまった。当日キャンセルが出ることを想定し、定員以上に受付を行う、当日受付枠を設けるなどの対策を考えたい。
・全体の流れや役割分担について、準備や確認不足があり、本番でのトラブルにつながった。打合せやリハーサルのやり方を見直す必要がある。
・子ども向けコンサートの場合、表示等を明確にし、参加者の誤解のないように努めたい。